

若竹ミュージカル

オペラ

『口はロボットの口』

再会コンサート



東京学芸大学附属特別支援学校

卒業生・家族・教員・支援者

若竹ミュージカルオーケストラ

指揮: 田久保 裕一

若竹ミュージカル「再会コンサート」に寄せて

音楽に 作品に 仲間感謝して

今日は、コロナ禍の長いトンネルを抜けて、酒田公演『屋根の上のヴァイオリン弾き』（2019年12月）以来、2年と11か月ぶりの公演の日です。今日は、若竹ミュージカルの再開&再会の日です。それで「再会コンサート」と名付けることにしました。

2020年が明けた2月から全く練習ができなかった数か月、その後オンラインでの作品やセリフ、歌詞の学習中心の練習が始まってパソコンやスマホの画面越しにしか会えなかった1年と半年、そして今年（2022年）の5月から対面練習が再開し、ようやく今日の日を迎えました。ミュージカル活動でつながってきた私たちには、“一緒に歌えない”つらいコロナ禍の日々でしたが、でもそんな中でも今日のこの日まで私たちを元気づけてくれたのは、やはり「音楽」でしたし、「作品」でしたし、そこでつながってきた大切な「仲間」たちでした。5月に久々に対面で歌った声と同じ空間の中で空気を通じて伝わってバチバチと音を立てて共鳴し合ういつもの感覚が戻ってきた時の喜びは忘れられないですね。これが「若竹ミュージカル」なんだと思いました。今日は、その音楽に、作品に、仲間感謝して思いっきり歌いたい気分です。

今回、私にはこんな「再会」もありました。私事で恐縮ですが、大学時代のクラスメートである指揮者の田久保裕一さんとの運命的な再会です。学生時代に男性の少ない音楽科でよくつるんでいた仲間の一人、田久保さんとこんな形で再会し、また一緒に音楽ができることになろうとはなんとという神様の計らいだろうと思います。田久保さんなら、私たちをこれまで育ててくださった広井隆先生の後をおねがいすることができるかと確信しています。

それからもう一つ、忘れてはならないのは、オペラ『ロはロボットのロ』（2012年の演目）との10年ぶりの再会です。この作品は、テーマ曲「テトのパンはあ」の歌詞あるように、主人公のテトが様々な困難を乗り越えながら、新しい希望に向かって力強く進んでいく作品です。私たちの再開にふさわしい演目だと思っています。今日はまだ再演のスタートラインに立ったところですが、また新しい気持ちで、ますますこの作品、登場人物、一緒に演じ演奏する仲間からたくさんの力をもらって、前に進んでいけたらと思っています。

11月6日

工藤 傑史

出演者

石黒 真衣子	川島 沙弥	佐川 賢二	谷山 いづみ	藤井 佑樹
石黒 芳子	川島 美栄子	佐川 哲也	谷山 洋子	藤井 弘美
伊藤 公一	木村 智子	佐藤 佳代	坪上 義子	藤江 真二郎
伊藤 敬子	工藤 傑史	清水 美恵子	藤間 節子	堀内 和子
植田 久	栗山 和宏	清水 志保子	藤間 真帆	堀内 熙
大野 優子	小島 訓子	鈴木 千夏	戸谷 さほ	松坂 功太
河西 正子	小島 諭	鈴木 裕一	戸谷 好秀	松矢 勝宏
河西 美保子	小林 美保	清野 友規	戸田 尚幸	茂木 季
加藤 彩	小林 竜一	清野 三千子	戸田 玲子	盛生 桂子
加藤 亜紀	近藤 さと子	関 千晶	長田 翔平	盛生 正子
加藤 富美子	近藤 由紀子	田口 雅之	橋本 明子	行友 宏文

若竹ミュージカルオーケストラ

指揮: 田久保 裕一

ヴァイオリン	名取 望	早川 元啓	山岸 正	渡邊 道代
ヴィオラ	広井 由美子	間瀬 充		
チェロ	尾崎 美穂	島田 栄子	鷺頭 まり子	
コントラバス	菊地 佐絵子	富山 英世		
電子ピアノ	河野 鈴子			

指揮者: 田久保 裕一

東京学芸大学音楽科卒業。チェロ・室内楽・指揮を学ぶ。12年間小中学校の音楽教師を務めた後指揮者に転向。1994年ルーマニアで開催された第4回「ディヌ・ニクレスク」国際指揮者コンクールにてグランプリ、審査員特別賞、聴衆賞を受賞。その後世界各地で多数指揮をしている。2002年より中国内蒙古民族歌舞劇院交響楽団名誉客演指揮者を務める。これまでに国内の主要オーケストラを指揮。また全国のアマチュアオーケストラや合唱団の育成にも力を注いでいる。また全国各地で指揮法講習会を開催し高評を得ている。指揮のDVDも発売中。日本指揮者協会幹事、日本吹奏楽指導者協会会員、国立音楽大学講師、内蒙古交響楽団名誉客演指揮者。

音響: 山北 史郎 (株式会社 山北舞台音響)

協力: 東京学芸大学附属特別支援学校

プロフィール

萩 京子 (はぎ きょうこ): 作曲

東京都出身。1978年、東京芸術大学作曲科卒業。1979年よりオペラシアターこんにゃく座の座付作曲家・ピアニストとして活動。1997年より音楽監督、2004年、代表に就任。主なオペラ作品は、宮澤賢治原作による『シグナルとシグナレス』『北守将軍と三人兄弟の医者』『注文の多い料理店』、シェイクスピア原作・『十二夜』(林光と共同作曲)、『夏の夜の夢〜嗚呼! 大正浪漫編』、その他『金色夜叉』『まげもん』『にごりえ』『好色一代男』『ネズミの涙』など。合唱曲『飛行清』(寺山修司:詩)『朝のパン』(石垣りん:詩)『きもちのふかみに』(谷川俊太郎:詩)『はっばとりんかく』(まど・みちお:詩)など。古今東西の詩人の詩によるソング多数。こんにゃく座以外の劇団への劇音楽も多い。

鄭 義信(ちよん ういしん): 台本

兵庫県出身。劇作家、演出家。93年に『ザ・寺山』で岸田國士戯曲賞を受賞。『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞ほか数々の賞を受賞。2008年の日韓合同公演『焼肉ドラゴン』(新国立劇場)では、鶴屋南北戯曲賞、読売演劇大賞、伊國屋演劇賞 個人賞など、その年の演劇賞を総なめにした。映画、演劇、テレビの分野で活躍。また、こんにゃく座の『口はロボットの口』『まげもん』『ネズミの涙』などの作品でオペラ台本・演出を担当している。



2010年

小金井祭公演(コンサート形式)
初めての『口はロボットの口』公演です。



この時の
観客(右)が
今は仲間に!



それぞれの役に
なりきっての演技。



作曲者の萩京子さん
(中央)を囲んで。

『口はロボットの口』

— 2010年 初公演からの歩み —



2011年

小金井祭公演(全幕公演)
ワクワク・ドキドキ、最後まで頑張りました。



カエルも熱演しました。



広井先生に感謝の花束を…。

南アルプス公演(全幕上演)



さあ~始まるよ~!



ココのアリア



お母さん達の怪しい(?)演技。



会場の皆さんと「テトのパンは あ」の大合唱~♪

2012年

小金井祭公演(全幕公演)
練習を重ねて、総仕上げの公演です。



6人のテト?
いろんなテト?

2020年～2022年

再びの「小金井祭公演」目指して、
コロナに負けず練習に取り組みました。



2022年6月からやっと対面練習開始！！



2022年5月
まではリモート練習。



画面に向かって
おはようございます。



マイクもしっかり消毒



保護者の
コーラスの練習
も始まりました。



指揮者の田久保先生
宜しくお願いします。



本番に向けて
セリフ・歌の
猛練習中！



オーケストラ
との合同演習



2022年小金井祭公演（再会コンサート）みんなで頑張るぞ！！

Viva 若竹ミュージカル!

Part XXI

今回のテーマは「4年ぶりの小金井公演で考えたこと」

皆さんに会える日を楽しみにしています

18回卒 坪上 義子

私の通う作業所はコロナで1回だけお休みになりました、その時は静かに家で休んでいました。若竹ミュージカルと手芸の同好会も中止になり残念でした。



みんなに会えなかったけれど黄色の表紙の台本が届いたときは嬉しかったです。

なつかしい歌を一人で練習しています、一緒に早く歌える日が来ると良いです。

お仲間の皆さま

21回卒 植田 久

ここしばらく体調を悪くして参加出来なかったことが何度もありました。少しずつ元気になり、又一緒に楽しくがんばりたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

植田 千代子

身体的にかなりきびしい体験も、つらかったことと思います。年とともに止むを得なかったのでしょうか本人の力で越えてもらうしかなく、お医者様にお任せし親は見守ることしか出来ません。

離れてみて判ったこと……

坪上 禮子

コロナで沢山制約のある最中の時期でした。私は出先で転倒して骨折してしまいました。幸いすぐに適切な処置がとられ入院が出来たのですが、頭を離れなかったのが義子のことです。動けず連絡もままならぬ中、自分のことよりも娘の事が気がかりでした。やっと連絡が取れて作業所に関連したグループホームにお世話になれることを知って安堵したとたんに、痛みと大変な怪我であることを自覚しました。義子は一人で生活に必要なものを準備し、留守宅の戸締まり、近隣への配慮、その上、私への心配りなど、目を見張るばかりの毎日でした。二人暮らしで見えなかった娘の成長を、離れてみてはじめて知った感動でした。年を重ね支え合う二人の生活に新たな力を得た気持ちです。

コロナでミュージカルがお休みになっても楽しかったです

25回卒 小林 竜一

コロナが始まった頃からクリーニングの仕事が少なくなって、会社の休みが多くなり、毎日が退屈でどうしようか?と思いました。仕事がないとどう過ごしていいかわかりません。

そんな時グループホームから誘いがありすぐに入りたと言いました。20年以上勤めたクリーニングの会社も作業所を見つけてもらい、変わることができました。作業所の仕事は種類が色々あって、友達も沢山いて楽しいです。

グループホームは仲間と食事や洗濯をするのが楽しみです。

毎日が合宿みたいです。

ミュージカルはお休みでしたがオンラインで「ハイ」とみんなに会えたので嬉しかったです。

コロナはもう少しで終わるのかな?

生活に大きな変化があったので夢中でした。コンサートが始まって、友達と会えるのがとても嬉しいです。



コロナを経験して

小林 美沙子

心配、不安、孤独。
今考えると夢中で過ごしてきました。
公演が出来るようで、まだ十分、安心できませんがほっとしています。
ミュージカルは竜一にとっても(母)にとっても何処かと繋がっている気がして頼れる場所でした。
歌うこと、演じることは、年齢的にも困難になってきましたが、大切なこの仲間と協力して、守っていきたいと思います。

一人立ち

25 回卒 田口 雅之・美登里

突然作業所より実習所と施設の実習をしてみないか?との話があり、親子の年齢や雅之の日常に老化が目立ち不安な気持ちもあったため、参加させてみました。

実習所では、作業所が実習所に変っただけの為スムーズに過ごせました。しかし長期間家を離れたことの無い彼にとって、知らない人の中、一人で一か月過ごすのは、かなりショックだった様で、毎日ケイタイの日々でした。

その後、通院の為家へ戻り、又施設へ戻る時、「又行く」と出かけたので少々期待していますが、将来一人になる事がいくら話しても理解できない為、頭の痛い日々です。

学校での練習が一番いい

25 回卒 木村 智子

ミュージカルの練習は学校に皆で集まって、ワイワイしながらの方が楽しくてやる気になります。皆と一緒にだと元気になります。皆と隣り合っていると自分の番がくるまでじっと待っている間が長くて一人ぼっちになったような気がします。皆と隣り合っていると終わったあと先生やお母さんたち、オーケストラの人たちとおしゃべりが出来ます。これも楽しいことの一つです。今年も合宿がとりやめになりましたが、来年はコロナが終わって皆とバスに乗って合宿にいけないかなと思っています。コロナが早く終わってくれるように心から願っています。

心像観客

木村 卓朗

オンラインでの練習を見聞きしていると、こういうことをする楽しさが殆ど伝わってこない。皆の顔も見えず、声も聞こえはするが、どこか無機質で人間味のあるやりとりが感じられない。コロナの為に無理なことではあるが、演技には本番でも練習でも相手の息遣いや体温が感じられるような身近さが必要なのだろう。小金井祭に参加するものの、非公開とは残念だ。でも、舞台に立って自分の役割をキチンとこなしてみることが次の公演にきっと役に立つはずだ。誰も居ない観客席と向かい合っても、皆の心の中には今まで度々接してきた超満員の客席の情景が必ず映し出されるのに違いがないのだから。

11月6日お会いしたいです

近藤 和子

さと子は20年前にあきる野の施設に入所しました。コロナの前は毎週末に帰っていましたから、ミュージカルの練習に参加しておりました。それが、コロナのため2020年2月末から帰宅出来なくなりました。時々電話で話したり、写真やCD、GO2などや好物のお菓子を送ったり、手紙も週に1回送っていました。私たちも感染しないように気をつけて、さと子を迎えに行けるように外出をがまんしておりました。

昨年の12月にやっと帰宅できて、初めてミュージカルのオンラインに参加しました。とてもうれしそうでした。お正月は主人が入院中で、孫たちも来ませんでした。さと子と10日間過ごせたことは楽しい思い出になりました。

カレンダーを見ながら、次回帰る日に赤丸をつけて楽しみにしていましたのに、又帰宅出来なくなり、現在に至っています。

公演の当日だけでも、参加出来るように祈りながら、小道具のパンを作ります。



いいナ。仲間って！

盛生 桂子

近藤 由紀子

いつになったらこんな日が来るのだろうと思っていましたが、本日、待ち兼ねていたミュージカルの舞台を、皆様に見て頂くことを大変嬉しく思います。

メンバー達とはオンラインで繋がりを持ち、貴重な経験をしましたが、対面練習が始まった日のふれあうことの温かさ、懐かしさは心にしみるものでした。

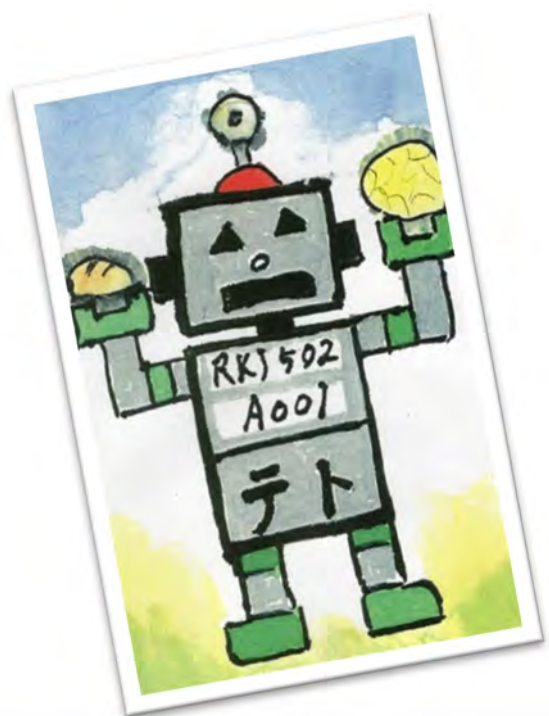
ある日 突然、今まで当然のように思っていたことが、集うことすら出来なくなった日々に、その日、その時を大切に過ごさなくてはと実感したのです。

私はこの2年数ヶ月の間にすっかり老化が進んでしまいました。何をすることも体力の衰えを感じています。若い皆さんの元気を頂いて、今日は久しぶりの舞台を楽しみたいと思っています。

ミュージカル大好き

27回卒 盛生 正子

私はミュージカルが大好きです。学校で練習するのでお友達とあうのが楽しみです。朝はパン食です。大好きなパンは、ソーセージ入りのパンです。テトもソーセージ入りパンを作れるかな？本番に作業所、青年学級のお友達がみにきてくれるとうれしいです。



残念でした

30回卒 伊藤 公一

今年の7月に楽しみにしていた合宿がコロナで中止になって僕は残念でした。

でも、オンラインで友だちや先生、お母さんたちと会えるのがたのしみでした。オンラインでみんながセルフをいう顔がアップになって、どんな気持ちかよくわかりました。僕の座っているところがせまくて体操がうまくできなかったので学校に集まって体育館で体操や練習が始まってうれしいです

コロナで転機のチャンスが来た？

伊藤 敬子

コロナ自粛の中で私はひとつの仕事から卒業させて貰った事と新たな自分探しの切っ掛けを得ました。ひととき失われた気力と体力の衰えは後期高齢者である現実を否応なく突きつけてきました。いかに月2回の練習日が私にとって生き甲斐や大きな夢を持た

せてくれていたことか身にしみて実感されました。

夫と自分たちの亡き後を真剣に話し合う一方で、二人の息子の為に長生きをしなくてはと、気弱になり足腰弱くなった現実を憂いました。そんな時に会ったのが「フレイル予防」という活動です。気力・体力・認知機能の低下するフレイルにならないように予防するという事で「体操(動く)・栄養(食べる)・社会参加(つながる)」の3つの柱を実践しながら健康で元気に暮らせるようにする事です。

若竹の活動がまさに一助となると確信して、みなさんと共に歩める日が再び到来するのをありがたく思う只今なのです。

みんなと一緒に歌いたい

30回卒 清野 友規

コロナで、ミュージカルの練習は、パソコンでして、楽しかったけれど、少し、さびしかったです。この間、学校で練習がありましたが、僕は、用事があって参加で来ませんでした。残念でした。こんど練習の日はキット行きます。友達みんなと一緒に大きな声で歌いたいです。

老骨に鞭打って！

清野 三千子

コロナも幾分治まり、学校内での若竹ミュージカル活動も参加者の細心の注意のもと、活動することが、許可され、ほっとしましたね。さあ！11月の大学祭での公演も目の前に迫っています。例年とは、異なった、今年でしかできない舞台になりそうですね。私も高齢になりましたが、末席で、老骨に鞭打ちつつ楽しませて頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。

「なかまがだいすきです」

31回卒 小島 諭

コロナで若竹ミュージカルの練習は学校にあつまってできませんでした。ぼくとお母さんは家のパソコンでみんなの顔を見ました。台本を読みました。楽しかったです。

5月から成美会館で半分のともだちに会いました。いっぱいうれしかったです。マスクをして大きな声で歌いました。みんなで集まって学校で練習するほうが好きです。ぼくはミュージカルのなかまが大好きです。

「歌うってすてきだな」

小島 訓子

♪チャチャチャチャ/チャチャチャチャ 指揮棒が振り下ろされ、オケの弓から音が出て来ると、メンバーの表情が、パッ！！と引き締まり、何時ものようなオケ合わせが始まりました。久しぶりに、本当に久しぶりです。

待ちわびたオケ合わせ……。みんな「歌を忘れたカナリア」状態から解放され、決して上手くは無けれど、心から歌っているのです。論は歌よりダンスやセリフの方が得意(?)で今まではどちらかというと歌はパス！だったのに、最近はCDに合わせて歌っているのです。私は「???」ずっと歌わない日々が続いたせいなのか？声を出して歌う事の楽しさ、気持ちよさを味わえるようになったのか？ならばコロナ禍で歌えなかった事も捨てた物では無かったと言うのは言いすぎでしょうか。

31回卒 藤江 真二郎

若竹ミュージカルで、みんなに会えてうれしいです。歌の練習、家でもがんばっています。

藤江 慶一郎

みなさんこんにちは。藤江真二郎の兄・慶一郎です。これまで参加してきた母・もと子の体調がすぐれないため、今回の練習から兄の慶一郎が真二郎と共に参加しています。

小金井祭でのミュージカル上演、本当にうれしいですね！コロナ禍で遠ざかっていた若竹ミュージカルの活動に復帰でき、真二郎の表情に明るさが戻りました。今年から通い始めた作業所では、昼休みにパンの歌を歌い、周囲を和ませているそうです。若竹ミュージカルの活動に感謝し、これからも他の家族と協力しながら、参加したいと思います。



みんなに会えてうれしかった

31回卒 小林 美保

コロナの感染がはじまってパソコンでミュージカルの練習をしました。みんなの顔がうつってとってもうれしかった、楽しかった。でもいつまで家でするのかな。学校で練習がやっとはじまりました。大きな声で歌えた。みんながここにいる。オーケストラの人もここにいます。前もそうだったように。みんなにあえてうれしかった。これからも頑張ります。

体力の維持したいです

小林 春江

コロナ禍が長引き色々変わってきています。私も娘もです。

元々手足の関節が弱く歩行もゆっくりな娘でしたが最近特に歩行が困難になってきました。病院の先生曰く、「今まで頑張ってきたのだから、これからは無理をせず脚を大事に使い、長持ちさせましょう」と、言ってくださいました。本当に長持ちしないと困りますね。

今は作業所へは家の前まで送迎して頂いていますので大変助かっております。

近いうちに車椅子が完成の予定です。車椅子の使用で今迄と違った生活ができそうです。行動範囲も広がり外出が楽しくなりそうです。

こんな身体現状ですが本人はあっけらかんとして大変さなど何も感じていません。

まだまだミュージカル頑張るようです。仲間も大好きだから続けてお世話になります。よろしくお祈りします。

小金井祭公演

31回卒 谷山 いづみ

今回の「口はロボットの口」で、ママモンローの役をやれて嬉しいです。

ミュージカルの練習は、オンライン練習は楽しかったです。学校での練習は、みんなと一緒に歌えて、もっと楽しいです。小金井祭公演が楽しみです。



小金井祭公演で思うこと

谷山 洋子

この度のコロナ禍の生活で、親子で筋力が落ち、動きが悪くなっていたのですが、小金井祭公演の舞台に立てることになり、いづみは、楽しみで、生活全体に活気がでてきて、元気になってきました。

台本も積極的に読んでいる様子を見てみると、楽しみな目標があることの大切さを、改めて思いました。

又、久し振りの対面練習で、卒業生の皆さんは、オケ合わせ、歌、セリフをスムーズにやれていて、積み重ねの大切さを感じました。小金井祭公演を楽しみにしています。

コロナ禍の過ごし方

32回卒 栗山 和宏

ぼくは、ミュージカルに行ってる時は、楽しかった。みんなに会うのがうれしかったです。ぼくは公演が大好きなのに中止でがっかりでした。でもしかたがないです。みんなもがっかりです。母も病院、頑張ってるから花をあげました。ぼくも頑張ります。仕事は休まず毎日行ってます。マスクと消毒と体温計とみだしなみをして仕事に行きます。家では毎日テレビをみます。コロナと台風と地しんと野球とすもう、バスたびをみえています。テレビのリモコンをもちっぱなしです。母におこられました。はんせいしました。(部屋の)かんき、ゴミ出しとかの手伝いもやります。ランニングマシーンで朝と夕方 2 回歩いています。これからも頑張ります。

公演が楽しみ

32回卒 河西 美保子

コロナで練習も合宿もなくなり、学校に行けなくてつまらなかったです。パソコンでみんなに会ったけれど一しよに歌えません。

みんなと一しよに練習ができました。みんなで歌いました。やっと会えてよかったです。うれしかったです。公演が楽しみです。がんばります。大きな声で歌いたいです。

旅行に行って木のロボットを作りました。「テト」を思いながら作りました。

大切な「当たり前」

河西 正子

「おはよう!」「久しぶり!」「元気?」。2年半ぶりに全員が揃った練習日、満面の笑みと共に挨拶が交わされました。実際に顔を合わせるのがこんなにうれしくてわくわくするのだと胸がいっぱいになりました。リレートーク、体操、発声練習と一つひとつ以前のように続き、全員での合唱は最高でした。この日をどんなに待ち望んだでしょう。

オンライン練習、コロナ禍でなければ経験できませんでした。パソコンの画面越しに仲間の顔を見、声を聞く。巣ごもり生活の中で貴重な時間となりました。でも全員で歌うことはできません。雑談もできません。このブランクで、当たり前の対面練習がどれ程大切か再認識しました。

半ば諦めていた公演が実現して新たな一步を踏み出したことに感謝し、思い切り歌いたいと思います。



学校にくるのがたのしいです

34回卒 鈴樹 裕一

ぼくはコロナの時にはゲームをしました。

たくさんあそんでたのしかった。

ぼくはすききらいがないよ。なんでもたべ

る。どれもだいすきです。学校にきてみんな

などリレートークをしたり、うたったり、せりふをよむのがたのしいです。氷をいれてもらった水とうで飲むのがうれしいです。

「コロナ禍を経て」

36回卒 行友 宏文・喜代子

コロナ禍にあって、皆さんにお会いできない日が続きました。でも、そのような中、オンラインの練習が始まり、画面を通してでしたが、私が思っていたような心配もなく、宏文は1時間30分を楽しく参加していました。「明日はオンライン練習があるよ」と声をかけると、「する」と言って当日を待つようになりました。

コロナと共生するとの方向になった現在、マスク他、気を付けることは変わりなく続けながら、宏文の作業所でも一泊旅行が久々に行われることになり、本当に楽しみにしています。若竹ミュージカルの皆さんにもお会いできることが多くなり、嬉しく思っています。4年ぶりの小金井祭公演に参加できることが感謝です。どうぞよろしくお願ひします。

小金井祭公演 2022

38回卒 石黒 真衣子・芳子

2019年の酒田公演を終えて翌年、次の演目が『ロはロボットのロ』に決まりました。2011年の小金井祭に、初めて若竹ミュージカルの舞台に上がった時の演目です。難しい変拍子の歌に戸惑い、舞台の上手、下手もわからない初公演でしたが、打ち上げた時の充実感に、娘も母もすっかりハマってしまいました。『ロボット』は絶対にまたやってみたく思っていた演目だったので、「ギター!」と喜んだ直後、想像もなかった事態が待ち受けていました…。

あれから3度目の秋、4年ぶりの小金井祭です。何ヶ月かの繋ぎだと思っていたオンライン練習。はじめのうちは、みんなの元気な顔を見られるのが楽しみでした。あやふやだったストーリーの勉強もしっかりできました。でも何かモヤモヤしたものがあつたのも確かです。そして9月…やっとたどりついたオケ合わせ。弦の音を聞いた時に思いました。「あーこれだ! なんて心地いい空気」音が空気を震わせて私たちを包んでくれたと。ずっとそれを作ってくださっていた広井先生、受け継いでくださる先生方、オーケストラの方々と共に、新しい希望と新しい喜びと新しい元気で 小金井祭へ GO!

ひさしぶりの学校練習&4年ぶりの小金井祭

39回卒 戸田 尚幸

この3年間、ずっとオンラインで練習をしてきました。ひさしぶりに学校で練習ができた時はうれしくなりました。小金井祭もひさしぶり。まだ、舞台の上で思いきり歌ったり踊ったりできないのが残念だけど、みんなとコンサートができる喜びを伝えられるようにやっていきます。

てってこてととと少しづつ

戸田 玲子

みんなの知恵と思いを集めて、ようやく4年ぶりの小金井祭参加にたどりつきました。この間、誰もがぶつかった思いもかけない困難や足止め。でも、そこから未知の新しい発見もありました。たくさんの川や山を越えて行ったテトのように、またここから、勇気を出して、出して…!

「口はロボットの口」のコンサートにむけて

39 回卒 佐藤 佳代

コロナの影響で家でのオンライン練習になりましたが、なかなか参加できませんでした。

8月になってみんなと会えてうれしかった。みんなと練習ができないとやる気がなくなってしまう。

台本もコンサート形式になりました。今回は1~5まで練習をして頑張ります。

新しい指揮者の田久保先生に教えてもらって公演します。

プレ公演ですが、早く全幕公演ができるのを楽しみにしています。

コロナに翻弄され

佐藤 順子

佳代はグループホームの方針で半日勤務の仕事はできましたが、家族に会ってはいけません。もちろん家に帰ってもいけない。なんとお正月も帰ってこられませんでしたし、オンライン練習もできませんでした。やっと1年半ぶりに、去年の11月になって家に帰れるようになりましたが、ますます筋力が弱くなってしまいました。

そこでグループホームを変わって安心していると、今度は2回も濃厚接触者となり家での待機になり、仕事にも行けませんでした。

やっと練習に参加できるようになりましたが、やる気をなくしていました。

しかし学校に行けるようになって、みんなと練習ができるのが嬉しくて楽しそうになりました。あれほど萎えてしまっていたのが、嘘のように台本を読んで頑張っています。

早くコロナが終息する日を待っています。

懐かしい芸術館

39 回卒 清水 志保子・美恵子

20歳の時にあこがれのわかたけミュージカルに入団し、20年が経ちました。4年前に芸術館で公演をして、3年の月日が流れました。想像さえしなかったこの未曾有のコロナ禍で、先がわからないまま、暮らしてきたこの災害のような月日。娘は思いのほか淡々と、母は当然のような体の衰え。気が付けば、3年間の重

みは、望むと望まないに関わらず、ずっしりと確実に結果を残してくれました。反省も後悔もしたくない気持ちです。社会全体がごそっと動き出して、私たちの身の回りも動き始め、引きずられるように私たち親子も動き始めました。

そして、この公演です。全力で臨みたいこの公演ですが、母は体調を崩して、思うように練習に参加できずにいます。せめて、娘は思う存分、仲間とのミュージカルを楽しめるように、公演までしっかり練習に参加させてやりたいと、気持ちを持ち上げていきたいと思っています。こんな、私たち親子でも、芸館は気持ちよく迎えてくれる気がします。

「一年間の練習の成果をこの芸館で披露するのだ」ということを励みに若竹ミュージカルは三十年近くもやってきたのですもの。やっと、以前のスタイルに戻ることができるのですね。

ここまで、活動を繋げてこられた方々へ、心から敬意を表したいと思います。本当に大変だったことと思います。ありがとうございました。

いまの気持ち

41 回卒 長田 翔平・菜穂美

待ちに待った対面練習ができるようになり、その日を心待ちにしています。毎回、工夫していただいたリモート練習は彼にとっては、なかなかしっくりこなかったようです。「新型コロナウイルス感染症」の感染が拡大する中、最も苦手な予定の変更・中止を彼なりに受け止め、帽子・手袋・ベルト・長靴・カップ等着用も苦手なのに「マスク」をなんとかギリギリ鼻出しで着けることができるようになりました。4月に親子で感染(自宅療養10日間)を経験したり、定期的に通院している総合病院では、年配の女性に「この方(彼)、マスクちゃんと着けるようにしてください!」とお叱りを受けたりもしました。

少しずつ、かつての日常生活に戻りながら、一堂に会えるしあわせを噛みしめたいと思います。



リモートを楽しみました

45回卒 戸谷 さほ

リモート練習でラジオ体操をした時に、長崎弁体操が面白かったです。「ぼってん」ということばをはじめてきました

これから いっしょうけんめいがんばれば、3年間の遅れなんて

ナンクルナイサー！！！！！！！！

じいさん

戸谷 好秀

入ったばかりの若竹ミュージカルで、「口はロボットの口」のナンバーで「寿命 ですか？」と歌ってから、早十数年。あのときは、「じいさん」と呼ばれて、「まだ若いのに。無礼者！」と、勝手に思っていた。酒田公演「屋根の上のヴァイオリン弾き」で、「金持ちなら！金持ちなら！！」と、歌ってから早4年弱。再び「口はロボットの口」の練習で「じいさん」と呼ばれて、「寿命 ですか？」と歌っている。

そして、今はなぜか、よく「じいじ」とか「じいさん」とか 時には、「じいじ」とも呼ばれるようになった。{寿命}も少し気になる。

しかし、{金持ち！！}とは一度も呼ばれない。

「いつか、そのうちに？？？」

光陰矢の如し、少年老い易く楽(学?)成り難し。とはいえ、この時代に、大きな声で楽しく歌を唄っている。娘とみなさんのおかげです。コロナ、……、……に負けず、チバリョー。

小金井祭

47回卒 加藤 彩

三年間以上ずっとコロナでしたが、やっと小金井祭にたどり着きました。皆と一緒に演技が出来て嬉しいです。私はアパートでいっぱい練習しました。久しぶりの小金井祭、楽しみです。セリフと歌をいっしょうけんめい頑張ります。

加藤 亜紀

9月23日の練習からオケ合わせが始まりました。オケ合わせになると、卒業生だけではなく保護者や支援者も俄然やる気が出てきます、という久しぶりの

感覚を思い出しました。

練習中、卒業生たちは派手に表現するわけではありませんが、喜びの気持ちが全身に表れていて思わず「よくぞここまで我慢したね、良かったね」と心の中で声を掛けました。しかーし、感無量とばかり言ってもらえません。本番まで本当に短い間ですが、できる限りのことをして臨みます。久しぶりの小金井祭、みんなで楽しみたいと思います。

「大切な仲間」

47回卒 藤井 佑樹

僕は大切な仲間がいることを大切にしたいです。命を救いたい守り続ける人になりたいと思います。みんなに会えてうれしいです。音楽を続けたいです。ロボットの口の中では好きな音楽はエピローグのうたが好きです。僕はロボット役を選んでうれしいです。オーケストラのみんなが大好きです。僕は仲間がいて、とても大好きです。コロナが早く終わりたいです。これからも大好きな人を大事に守りたいです。

集える場所

藤井 弘美

「公演出来なかったこの4年間、なにをしていたか、何を考えていたか？」原稿のお題を見て、「うわっ！もう4年間も？！！」と改めて驚きました。本当に長い長い出口の見えないトンネルを走っているようで、でも若竹ミュージカルというあの場所は直ぐ近くに在り続けてくれました。先日、対面練習が始まるとすぐ、コロナでのブランクがなかったかのようにみんながすっぱり「あの場所」に収まりました。

公演が出来ない間考えたのはやはり、このまま若竹ミュージカルが無くなってしまうのでは？という不安でした。けれども、再び顔を合わせた時、みんなの表情からみんなも同じ気持ちだったのだと感慨深かったです。そして、オケのみなさん！体育館で楽器を手に集まって下さる姿、鳴り響く美しい音色と指揮と笑顔に支えて下さる方々の愛を感じ涙が出ました。苦難の時期を経ても繋がりたいと思う場所を仲間と与えて頂いている事に感謝です。

「仲間が集まって一緒に音楽をやるという事」

49回卒 茂木 季

みんなと、声を出して歌を歌うと、本当に「楽しいな〜！！」と思いました。難しい歌でもチャレンジすることが大事だと思いました。歌をもう少し頑張ろうと思います。自宅でのリモート練習も楽しかった。zoomの使い方にも慣れて携帯の小さい画面ですが楽しくできました。久しぶりの対面練習は本当に嬉しかったし、楽しかった。これからも頑張りたいです。

「若竹ミュージカルは宝物」

茂木 千沙

若竹ミュージカルの仲間と対面する日がどんなに待ち遠しかったことか！久しぶりに皆さんとお会いできたとき本当に嬉しかった。学校でも、みんな不自由や窮屈に耐えて生活を送っています。ついこの前、3年ぶりにお客様をお招きして(とは言え、家族だけですけど…)文化祭が行われました。何と、3年生は最初で最後の来客ありの文化祭でした。生徒たちは本当に嬉しそうで、楽しそうで！！自分のパフォーマンスに対して直接の反応や賞賛が帰ってくると言うことは何にも代えられないことです。一度でもそれを味わってしまうと、もう、その魔力から逃れられません。私にとっては若竹ミュージカルがそうです。酒田での公演が忘れられません。あの時のみんなのパワー、歌声。酒田の人達の熱気とホスピタリティー…すべてが夢の中の出来事のようにいつでも私をほんのり、うっとりさせてくれます。私を支え、幸せな気持ちにしてくれます。一生の思い出です。

49回卒 関 千晶

久しぶりに若竹ミュージカルができました。歌とか歌うのを、楽しみにしていました。コロナの関係で、できなかつたりしましたが、やっと無事に本番をむかえました。マリンのうたも、なかなか歌えなかったので、発表できるのをすごく楽しみにしています。コロナの関係で毎体温チェックしながら、お仕事頑張っています。休まず通ってます。若竹ミュージカルの本番ができると心待ちにしています。

新しい希望の公演

50回卒 堀内 熙

コロナでオンラインれんしゅう、みんなのかおが見えて楽しかったです。パソコンのマイクをかってもらって、セリフのれんしゅうをしました。

9月23日、学校の体育館でオーケストラといっしょに『口はロボットの口』のれんしゅうをしました。ぼくはテトがすきです。みんなといっしょで楽しかったです。

堀内 和子

コロナ禍が始まって3年以上が経ちその間、長年通った作業所の移転、感染による休業が数回、感染予防の環境変化…と今までと違う日常生活でした。楽しい行事が制限される中、小さな楽しみを職員の方々が作ってくださって元気に通っています。

若竹ミュージカルでは、初体験の「オンライン練習」。当初うまく繋がるかドキドキしましたが、画面にみんなの顔が映ると「おお～久しぶり！」と感動しましたね。Zoomで練習なんて、コロナ禍で得た貴重な経験となりました。

そして、何年ぶりかの学校での練習…やっとみんな会えたね！やっぱり実際に会うと嬉しさが倍増！！久しぶりの「小金井祭公演」も決まり、練習不足も何のその…♪新しい希望と新しい喜びと新しい元気が～♪ みんなの歌声を響かせたいと思います。

『コロナ禍を想い、これからを思う』

50回卒 川島 沙弥

私は歌の練習と台本を読んでセリフの練習をしています。「口はロボットの口」のお話はセリフのやり取りがとってもおもしろいです。イントネーションの難しいところは何度も繰り返し練習しています。歌はとっても難しいのでマダマダ練習したいと思っていますが、みんなと集まって歌うとスゴク楽しいです。みんなと練習すると私も、もっとガンバロウ！とワクワクしながら公演を楽しんでいます。

川島 美栄子

コロナが始まり未知のウイルスと向き合う世の中は人生のピンチ！

今までの急停止し此れまでの暮らしで経験の無い緊張の連続で気の休まらない日々、心が不安定になって苦しむ娘との暮らしは心の涙が溢れることも…。そんな中でもミュージカルとの繋がりは大きな支えのひとつでクサルコトなく着実に前に進む中から改めて娘とのコミュニケーションにも変化が生まれ母も少しずつ穏やかに少しだけ寛大に成れて良い機会であったのではないかと考えています。

娘と一緒にまだ伸び代が有るはずと信じ言い聞かせ出来る時に出来る練習を精一杯やって、それが今の成長と認めながら公演を楽しみにしてきました。

52回卒 佐川 賢二・哲也

この4年間、あたりまえであった対面練習、その成果発表の小金井祭ができなくなって賢二も物足りなさを感じていました。

穴埋めに学校までドライブしたりしました。学校が近づくとも嬉しそう表情をして、行くことで取りあえず満足してもらっていました。ZOOM練習は、どうも苦手で、毎回、途中から逃げてしまいました。

今回、練習、小金井祭の再開、万歳です。やっぱり、生の人間同士触発が一番であることを再認識しました。

本番、頑張ります。

『苦手なものを数えると』

56回卒 藤間 真帆

「ミュージカルが好きです。

歌が好きです。

オーケストラも好きです。

工藤先生も好きです。

リモート練習楽しかったです。

みんなに会えて嬉しいです。」

苦手なものを聞いたのですが、好きなものばかり並べていました。弱点は内緒にしたいのかもしれませんが真帆はテトと同じで「跳び箱とイヌ」が苦手です。

藤間 節子

まずはコロナ禍でもみんなを繋いで下さった先生方と運営委員の方々に深く感謝申し上げます。『口はロボットの口』の初めての練習日、私が以外そうな顔をしたのか先輩のお母様から「そう案外良い歌でしょう」と嬉しそうにお話をいただいたのがまだコロナの気配のない穏やかな日々の最後だったと思います。その後の緊急事態宣言やら自粛生活で心が折れそうな時この『案外良い歌』にこんなにも励まされるとは思ってもみませんでした。家族以外誰にも会えない日々が続く中リモート練習が始まりました。画面越しですが皆さんの元気なお姿にとっても勇気が湧きました。そしてリアルな練習が始まった時のみんなの嬉そうな笑顔は忘れられません。仲間って素敵と思いました。今回の少し変わった形の公演もいつか「あんな事もあったわね」と笑顔で語れる日が来る事を願い楽しみたいと思います。



若竹ミュージカルオーケストラ

「合わせる喜び」

チェロ 尾崎 美穂

9月に行われた学芸大での最初のオケ合わせの日。
「わあ～、楽しい♪」
そしてその後の附属特別支援学校でのミュージカルとの合わせの日。
「楽しい♪ワクワクする！」
私自身、昨年の7月にオーケストラの演奏会に参加して以降、アンサンブルする機会がなく久しぶりの合わせでした。
一人で演奏することには興味がなく、みんなと合わせるから楽器が弾きたいのだ、合わせるのが楽しくて好きなのだ、ということが活動できなかったことでようやく認識できました。

みんなで集まって合わせられることに幸せを感じつつ楽しく演奏したいです。

コントラバス 菊地 佐絵子

久しぶりに舞台の皆さんとオケが再会した9月23日。すっかり忘れていた感覚が蘇りました。自分を満たしてくれること、それはこんなにもささやかなキホンのキと言えること。仲間がいて一緒に音楽を奏でられる幸せ、ただそれだけ。
そして、たったこれだけのことが全く叶わない予想外の時間を、ここの誰もが経験し、今また戻ってきて一緒に歌い演奏している…と不思議な思いでした。自分の反応が鈍ったと実感していますが、開いていた距離と時をゆっくり少しずつ埋め戻し、様々起きたことは皆で乗り越えやっていける…そんなことを考えた練習再開でした。
若竹ミュージカルの仲間を信じて！またよろしくお願ひします！



コロナを経て

ピアノ 河野 鈴子

2019年コロナが流行し、自粛自粛の日々でした。活動を続ける事自体が難しく、消えてしまう団体を、何個も見てきました。その中、途切れる事なく努力し、繋がり続けた若竹は本当に凄と思います。一人一人の想いがあったからこそその事だと、痛感しています。そして、皆さんと対面練習出来た時は、感無量でした。久しぶりの歌声を聴いた時は、コロナ前に心が戻り、音楽の素晴らしさも感じました。

小金井祭のコンサート、何年振りでしょうか。思いを馳せてしまいます。また皆さんと一緒に音楽を奏でられる事になり、その中の一員にいれて嬉しくてたまりません。

あとは、本番まで演者全員が心身共に健康で舞台に挑めるよう願うだけです。

コロナ禍での「若竹ミュージカル」

チェロ 島田 栄子

コロナ問題当初は、現実離れた状況(ロマンスカーで毎日通勤してレジャー気分だった…)の中、しばらくの間浮き足立っていたなと我ながら思い返します。そんな中、舞台の皆さんはオンライン練習を開始、初めて参加した時には皆さんがすっかりツールを使いこなしている事とにかく驚きました。なんて遅いんだ!! 環境の変化を受け入れて適応していく柔軟さ、また、それらのハードルを乗り越えて活動するんだ、という若竹ミュージカルへの強い熱意を感じました。いつ終わるのかしらん、と漫然としていた私は大いなる刺激を受けました。この4年間は、若竹ミュージカルへの想いや大切さを改めて認識できた時間だったな、と感じています。当たり前が当たり前じゃなかったという事。それを忘れずに活動していきたいな、と心新たにしています。

コントラバス 富山 英世

この夏に感染発症しました。ダンボールで食べ物もらいましたが、チョコレートがチョコレートの味せず、私は甘いものを食べないので、余ったら人にあげよう、にもこんなまずいものあげられん、商品として成り立たん、と腹をたてましたが、治ってから食べてみたら普通のチョコレートである。

ひどい腹痛に見舞われました。我慢の限界をはるかに超え、苦しみのたうちまわりながら「おれはこれでもうだめなんだ」と思いました。

あのまま死んでいたら、この拙文も書かなかったし、若竹にも復帰しなかったんだ。ウイルス感染は治れば日常が戻ってくる。若竹にも戻れた。

祝再開

ヴァイオリン 名取 望

9月23日に、2年半ぶりにキャストの方たちと一緒に練習しました。オンラインで練習してきて、ここまで歌えたり参加したりできるんだ、と驚きました。

何より、みなさんの歌声に以前と全く変わらない、ワクワクや緊張やたくさんの想いを感じて、本当に楽しい再会でした。

離れて練習しなくてはならなくても、こんなふうにもまた舞台を作れるのは、若竹ミュージカルがそれだけ魅力的だからだと思えました。再開おめでとうございます♡

準備に余念なし！

ヴァイオリン 早川 元啓

オリンピックは「4年」ごとに開かれる。一度出場を逃すと、4年後にはその人自身がどうなっているかわからない、というような話をよく耳にする。

4年という年月は、そのくらい重いものなのだ。そのくらい大切なものなのだ。

今日の出演者全員、そして客席のみなさんは、その間に全員「コロナ禍」というものを経験してきた。そして、一人一人は、それぞれの自分の人生を歩んできた。

4年の間に考え、経験し、成長し、そしてためてきたエネルギーを今日爆発させます。

乞うご期待！！

3年

ビオラ 広井 由美子

9月23日、体育館で「この日を待ちに待っていました」という挨拶の言葉を聞いたら、思いがけず涙があふれました。音楽をこんなにも求めているという心からの思いが伝わってきて、ここにあの人がいたのだ、その空気の中に自分は今いるのだとわかったからです。

隆が旅立ってから3年が過ぎました。その人生について繰り返し思い返します。オーケストラの中にたった一人いればよいという、思えば孤独な仕事でした。若竹ミュージカルが、参加する皆様にとってかけがえのない場だったからこそ、隆にとってもかけがえのない場だったのだと思います。若竹の方々を始め、本当に音楽を愛する人たちに囲まれて生きられたことは、隆にとって幸せなことだったのだと思います。今も、いつも、きっと一緒にいると感じています。若竹ミュージカルの今後の一層のご活躍をお祈りしています。

リモートとリアル

ビオラ 間瀬 充

リモートワーク、リモート会議、リモート呑み会など、いろいろなリモートを経験した4年間。便利になったと思う反面、どこかしっくりこない。リモート演奏もそう。

たとえば息を合わせること。リモートだとどうしてもタイムラグがあって合わせることはできない。そこでメトロノーム音が入った音源をヘッドホンで聴きながら、個々別々に録音して、あとで編集する。うまく編集してもらえなくても、合奏したリアリティが足りない。

今、ようやく合奏ができるようになって、周囲の息を感じながらリアルな合奏を楽しんでいる。自分の鼻息が目立たないように注意しながら。



「背中に目が欲しい！」

ヴァイオリン 山岸 正

今回が若竹のステージ2回目、ピチピチのフレッシュな60才です。酒田の本番、素晴らしかったですね！リモートとかができないので、「ブロードウェイ」のお便り、とっても楽しみにしていました。コロナに負けない「若竹愛(ラブ-ワカタケ)！」。すごい！カッコいい！素敵です！久々の合同練習でも息がぴったりなので感動しました。

皆さんの歌や息を背中に感じてパワーに変えてバイオリンをひいてます。時々後ろをふりかえったりしながら…「私の背中に目があればいいのになあ」って思いながら…。

本番、楽しみです。よろしくお願いします！

心溶けるような

チェロ 鷲頭 まり子

長い長いwith コロナの生活、度重なる自宅待機で私はすっかりナマケモノになりましたが、コロナ禍でもリモート練習を重ね、GO2で復習をし、情熱や仲間

との友情を途切れさせることなくむしろ深めていった若竹ミュージカルの皆さんには敬服するばかりです。また、学芸大学オーケストラOBの方々の学生時代に培ったのであろう情熱や協力体制、ここ数年繋がった新しいオケメンバーの方々の協力がミュージカルオーケストラの存続を支えたのではないかと思います。やっと対面練習が再開され、久しぶりに皆さんにお会いできて本当に嬉しく心が溶けるような感覚です。

ヴァイオリン 渡邊 道代

2019酒田公演以来の2022小金井祭公演、オーケストラは弦楽器だけですが、またこうしてキャストの皆様とご一緒できることを嬉しく思います。コロナ禍で集まることが出来なかった時期も、コツコツとオンライン練習を重ねられ、何回かお邪魔しましたが、皆様の前向きな笑顔に沢山元気を頂きました。見に来て下さるお客様にも元気になって頂けるよう、舞台の皆様が気持ちよく歌えるよう、心を込めて演奏します。

支援者

ただいま！芸術館

大野 優子

4年ぶりの芸術館での公演。いつもと同じようにとはいかないけれど、また、この芸術館で公演ができてうれしいです。表現活動そのものは、いつでもどこでもできるけれど(もちろんオンラインでも)、やっぱりお客さんを目の前に、みんなで同じ空間を共有しながら行う公演には格別なものがあります。コロナで思うように練習できませんでしたが、公演したいというみんなの気持ちは高まっています。見ている方に思いが伝わる、そんな公演にしたいです。

鈴木 千夏

4年ぶりの小金井祭公演、本当におめでとうございます。

この3年間は、本当に長かったですね。けれど、慣れないオンラインでの練習は、回を重ねるごとに、機器操作もスムーズになり、保護者の皆様・先生方の愛情の深さに感動しました。画面越しでも「歌いたい！踊りたい！芝居をしたい！」そして、「舞台が大好き！」がとても伝わってきました。

やっと、みんなと会えるようになって、マスク越しですが大きな声で歌えるようになって、「嬉しい！楽しい！！やったー！！」が一人一人の顔が見えない後方にいても伝わってきます。

やっと舞台に立てましたね。みなさんの笑顔が、もっともっと、たくさんの人に届きますように！

4年ぶりの小金井祭公演で考えたこと

橋本 明子

“4年ぶり”

改めて言葉にすると不思議な感じでした。そんなに時間が経っていたのか？と思う反面、この間起こったことを思い返すと、確かに…、とも思える。

広井先生のこと。コロナのこと。コロナによって、世の中の生活様式が大きく変わりました。若竹ミュージカルの練習の在り方も。

でも、変わらないものがある、ということも実感しました。

音楽はやっぱり“生”がいい。みんなで同じ場所に集い、相手の表情、口調、その空間の雰囲気、匂い、温度を感じながらそこに自分も居ることの心地良さ。

まだまだコロナ前と同様に、というわけにはいきませんが、4年ぶりに同じ場所に集えた喜びを、みなさんと共有しながら臨みたいと思っています。

「再開に感謝」

松坂 巧太

コロナ禍のため、練習の中止。そして、オンラインとなった若竹ミュージカルの練習。画面越しでお顔を拝見してリレートークや台詞の練習ができたのは少し日常が戻りとてもうれしい時間でした。そして、対面練習の再開。初日の感動は忘れられません。画面越しだったみなさんに会えてお話できたこと、一緒にラジオ体操や歌の練習をしたこと。みなさんのうれしそうな表情や生き生きとした姿が思い出されます。コロナ前までは普通に行っていたことですが、実際に顔を合わせて練習できることの大切さを再確認しました。小金井祭本番、久しぶりの舞台上で緊張もありますが、みなさんと一緒に楽しみたいです。



《Viva 若竹ミュージカル》

Part I : 1997年 公演プログラム
Part IV : 2006年 東久留米公演プログラム
Part VII : 2008年 公演プログラム
Part X : 2010年 小金井祭公演プログラム
Part XIII : 2013年 小金井祭公演プログラム
Part XVI : 2016年 小金井祭公演プログラム
Part XVIII : 2017年 小金井祭公演プログラム

Part II : 2001年 公演プログラム
Part V : 2006年 公演プログラム
Part VIII : 2009年 公演プログラム
Part XI : 2011年 小金井祭公演プログラム
Part XIV : 2014年 小金井祭公演プログラム
Part XVII : 2017年 若竹ミュージカル武蔵野公演プログラム
Part XIX : 2018年 小金井祭公演プログラム

Part III : 2005年 公演プログラム
Part VI : 2007年 公演プログラム
Part IX : 2010年 公演プログラム
Part XII : 2012年 小金井祭公演プログラム
Part XV : 2015年 小金井祭公演プログラム
Part XX : 2019年 25周年記念公演プログラム



若竹ミュージカル

〒203-0004
東京都東久留米市氷川台 1-6-1
東京学芸大学附属特別支援学校
若竹会
若竹ミュージカル